独立行政法人国立高等専門学校機構

宇部工業高等専門学校

平成２３年度　環境報告書

平成２４年１１月

≡≡≡　目　　次　≡≡≡

１　校長メッセージ･･１
２　対象となる組織・範囲・期間 ･･２
３　本校の概要･･２
４　学習・教育目標･･３
５　環境方針･･３
６　中期目標・中期計画における環境配慮関連事項･･････････････････････････････････３
７　中期計画・中期目標に対する取組の状況･･４
８　環境マネジメントシステムの組織・体制及び環境目的・環境目標とその取組状況 ･･･５
９　法規則の遵守･･６
１０　環境教育・研究の状況
①環境教育に関する状況 ･･６
②環境に関する共同研究等の状況 ･･７
１１　事業活動に伴う環境負荷及び低減に向けた取組
①光熱水の状況 ･･７
②新エネルギー利用状況 ･･８
③生ゴミ等の排出状況 ･･８
④産業廃棄物の排出状況 ･･８
⑤公用自動車の使用状況 ･･９
⑥グリーン購入の状況 ･･９
１２　温室効果ガス（CO_2）の排出の状況 ･･････････････････････････････････････９
１３　その他学内の取組の状況
①エコフェア２０１１　ｉｎ　ＵＢＥへの出典･･････････････････････････････１０
②構内清掃活動 ･･１０
③ごみ減量の活動･･１０
④省エネ対策 ･･１１
⑤毒・劇物の管理状況 ･･１１
⑥教職員の通勤に関する状況 ･･１１
１４　その他･･１１
資料（次頁参照） ･･１２-２９
学校位置図･･３０

【資料編】

○別紙１　建物一覧・建物配置図 ……………………………………………… １２
○別紙２　環境方針 ……………………………………………………………… １４
○別紙３　宇部工業高等専門学校環境マネジメント組織・運用体制 ………… １５
　　　　　宇部工業高等専門学校環境マネジメントシステムの役割と責任 …… １６
　　　　　「環境方針」を達成するための環境目的及び環境目標 ……………… １７
　　　　　「環境方針」を達成するための環境目的及び環境目標に基づく行動計画 …… １８
○別紙４　平成２１年度　環境目的及び環境目標に基づく行動計画に対する取組状況 … １９
○別紙５　環境に関する共同研究等 …………………………………………… ２２
○別紙６　水道光熱費の比較表
　　　　別紙６－１　　平成２２・２３年度　電気使用量の比較 …………… ２３
　　　　別紙６－２　　平成２２・２３年度　ガス使用量の比較 …………… ２４
　　　　別紙６－３　　平成２２・２３年度　水道使用量の比較 …………… ２５
　　　　別紙６－４　　平成２０～２３年度　電気ガス水道使用量の比較 … ２６
○別紙７　生ゴミ等の排出量 …………………………………………………… ２７
○別紙８　産業廃棄物の排出量 ………………………………………………… ２８
○別紙９　温室効果ガス（CO_2）の排出量比較 …………………………… ２９

１　校長メッセージ

２１世紀は環境の時代だといわれています。世界のエネルギー消費量が急激に増加し始めた２０世紀後半より，経済成長，エネルギー供給，地球環境の三者は互いに競合する関係にあり，トリレンマ問題と呼ばれてきました。すなわち，地球温暖化に関わる環境問題は，異常気象や災害ばかりか，エネルギー供給，食料生産や水資源にも影響を及ぼすため，環境に優しい持続可能性に向けた低炭素社会への取組が求められています。経済成長，エネルギー供給と地球環境を調和させながら，世界人口が増加する中で持続的に発展を図ることが２１世紀に暮らす人類の大きな課題です。

校長　福政　修

さて，平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災及び福島原子力発電所の事故から１年半以上が経過致しました。しかし被害が甚大であったことや，その他諸問題から復旧・復興は思うように進んでおりません。とりわけ、放射性物質による汚染や原発再稼働と電力制限の影響は大きく、再生可能エネルギー対策を含め、日本のエネルギー事情が変わり始めています。また除染作業における不適正な行為なども見られ，環境保全に対する倫理観についても見直す必要があります。本校としても本科・専攻科におけるエネルギー・環境教育にて，技術者としての倫理観をいっそう高める必要があります。

国立高等専門学校機構（高専機構）においては，平成１８年２月に「高専機構環境方針」，平成２０年３月には「独立行政法人国立高等専門学校機構における温室効果ガス排出抑制等のための取組について（指針）」を制定し，具体的な内容と数値目標を定め環境対策を推進しています。本校も高専機構の一員として，持続可能な社会の構築，環境負荷の低減等への貢献のため，平成１８年度に「環境方針」を定め，これに基づき環境負荷の低減に向けて全校あげて努力しております。

本報告書は，平成２３年度における本校の環境保全に向けた取組について取り纏めたものです。環境教育や省エネ設備の整備、省エネパトロールや安全パトロールを実施し，環境保全，資源や設備の有効活用に関する自己点検や取組意識の向上を促すとともに，老朽化した設備の更新による高効率化・消費エネルギーの削減に努めてまいりました。また研究においても、環境保全関係の応用・開発研究を推進しております。これらの結果を，次年度の活動方針の策定に役立て，本取組のさらなる推進を図る所存です。

地球環境保全に向けては，まだまだ取り組むべき課題は数多くあります。本校では，地域社会と連携した教育・研究活動を通じて，持続的発展・循環型社会の一翼を担う学際的な視野を持った中核的技術者の養成に努めてまいります。その一環として，平成２２年度以降入学の全学科の学生を対象に，環境・安全を共通のキーワードとする新しい教養・導入教育『マトリックス型基盤教育プログラム』を実施しております。学生諸君の勉学意欲向上に繋がる動機づけ，技術者スピリットの醸成、環境に配慮する心の育成に役立つことを期待しています。

２　対象となる組織・範囲・期間

○組　　織　　本　科（機械工学科，電気工学科，制御情報工学科，物質工学科，経営情報学科，
一般科）
専攻科（生産システム工学専攻，物質工学専攻，経営情報工学専攻）
図書館，情報処理センター，地域共同テクノセンター，技術室
福利厚生施設（学生会館，ものづくり工房，クラブハウス），課外活動施設
事務部（総務課，学生課），学生寮

○対象範囲　　校舎地区，寄宿舎地区，運動場のすべて

○期　　間　　平成２３年４月１日～平成２４年３月３１日

３　本校の概要

○所　　在　　山口県宇部市常盤台２－１４－１

○創　　立　　昭和３７年４月１日

○土地面積　　校舎地区　35,295㎡　寄宿舎地区　13,024㎡
運動場　26,118㎡

○建物面積　　校舎地区　建面積合計10,606㎡　延面積合計23,493㎡
寄宿舎地区　建面積合計 3,281㎡　延面積合計 9,133㎡
その他　建面積合計 255㎡　延面積合計244㎡　（詳細は，別紙１）

○教育組織　　本　科　機械工学科(40名)，電気工学科(40名)，制御情報工学科(40名)，
物質工学科(40名)，経営情報学科(40名)　※(　)は入学定員
専攻科　生産システム工学専攻(12名)，物質工学専攻(4名)，
経営情報工学専攻(4名)　※(　)は入学定員
その他　図書館，情報処理センター，地域共同テクノセンター，学生会館，
ものづくり工房，学生寮

○教職員数　　校長，教授25名，准教授37名，講師10名，助教5名，助手1名，職員46名
（平成24年4月1日現在）

○学生数　　機械工学科 211名，電気工学科 207名，制御情報工学科 210名，物質工学科 211名，
経営情報学科 204名，合計1,043名　（平成24年5月1日現在）

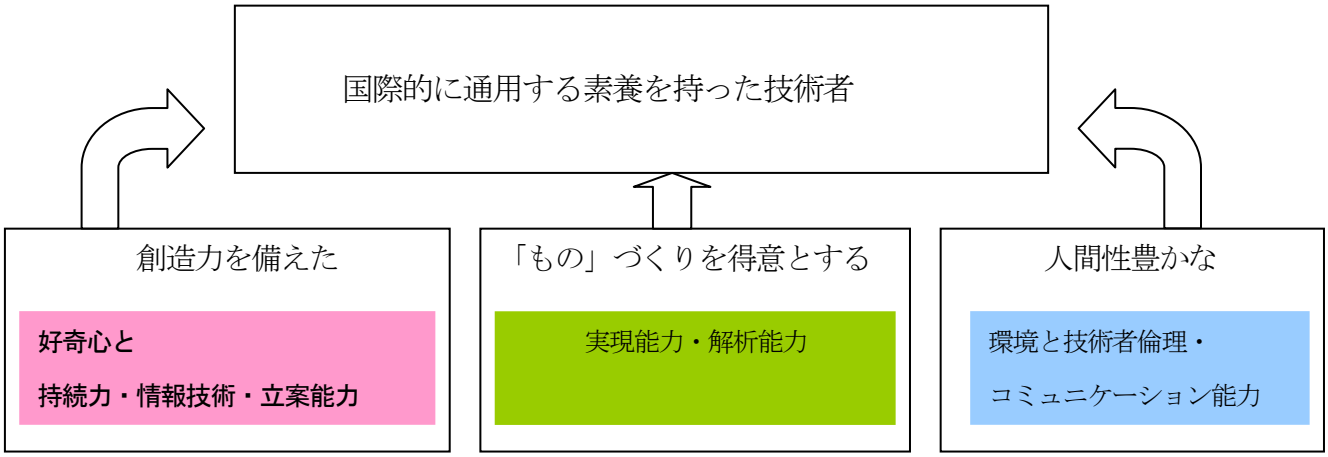
○専攻科生数　　生産システム工学専攻47名，物質工学専攻 12名，経営情報工学専攻8名，合計67名
（平成24年5月1日現在）

○卒業者数　　本科生 196名，専攻科生44名　（平成23年度）

４　学習・教育目標

本校は，「もの」づくりを得意とする技術者の養成を目指します。そのために本科では，人間倫理の涵養を最優先し，自然科学に関する基礎学力，語学力，情報処理能力を養うとともに，各学科では，それぞれ，機械工学，電気工学，制御情報工学，物質工学，経営情報学に関する技術的・実践的基礎能力を培います。

専攻科では，自然科学に関するより進んだ学力と上述した各専門分野の学問・技術に関わるさらに高度な能力を養成するとともに，これらを融合・複合して，事象・現象を複眼的視野で総合的に捉えることができる能力を養成します。



５　環境方針

環境方針は，別紙２のとおり，平成１８年５月に定めた。

６　中期目標・中期計画における環境配慮関連事項

①地球環境保全のため，教育・研究活動において環境との共生を意識し，環境負荷の低減を推進する。

・地球環境を意識した循環型社会の形成に取り組みが出来るよう学生への環境教育の推進を図る。

・本校の施設の運用に関しては温室効果ガスの排出抑制の検討をするとともに積極的にその実施を図る。

②省エネ・コスト意識の徹底化を進め，管理的経費の抑制を図り，施設，備品等の有効活用を推進する。

・光熱水費節減を徹底するため，巡回・監視体制を確立する。

・各建物毎のエネルギー(電力，水道等)使用状況の把握・公表に向けて検討する。

・学内を挙げた省エネ運動を実施する。

・会議資料等のペーパーレス化を促進する。

・定期的に施設・備品等の使用状況を確認し，有効活用の促進を図る。

③運用面の改善と平行し，積極的な設備投資を行い，施設・設備面の改善を推進する。

・自動節電・節水装置の設置，高効率型照明器具への更新，建物の断熱化等を推進する。

・施設の大規模改修を行う際には，太陽光発電，雨水再利用システム等，自然エネルギーを利用した設備の導入を検討する。

7　中期計画・中期目標に対する取組の状況

平成２１年度から第２期中期目標に対する中期計画に取り組んでいる。以下は第２期中期計画の環境に関連した項目に対する平成２３年度の取り組みである。

①～③は中期目標の環境に関連する項目
各・は各中期目標に対する中期計画
各〇は各中期計画に対応する平成２３年度計画
各◎は各年度計画に対する取り組み

①地球環境保全のため，教育・研究活動において環境との共生を意識し，環境負荷の低減を推進する。

・地球環境を意識した循環型社会の形成に取り組みが出来るよう学生への環境教育の推進を図る。

〇環境･安全をキーワードとした｢マトリックス型基盤教育による技術者スピリットの熟成プログラム」を継続して行う。

◎昨年度後期より開始した”環境・安全”をキーワードとした新しい教養・導入教育「マトリックス型基盤教育プログラム」について，２３年度は，１年生並びに２年生を対象に５回の講義を実施した。

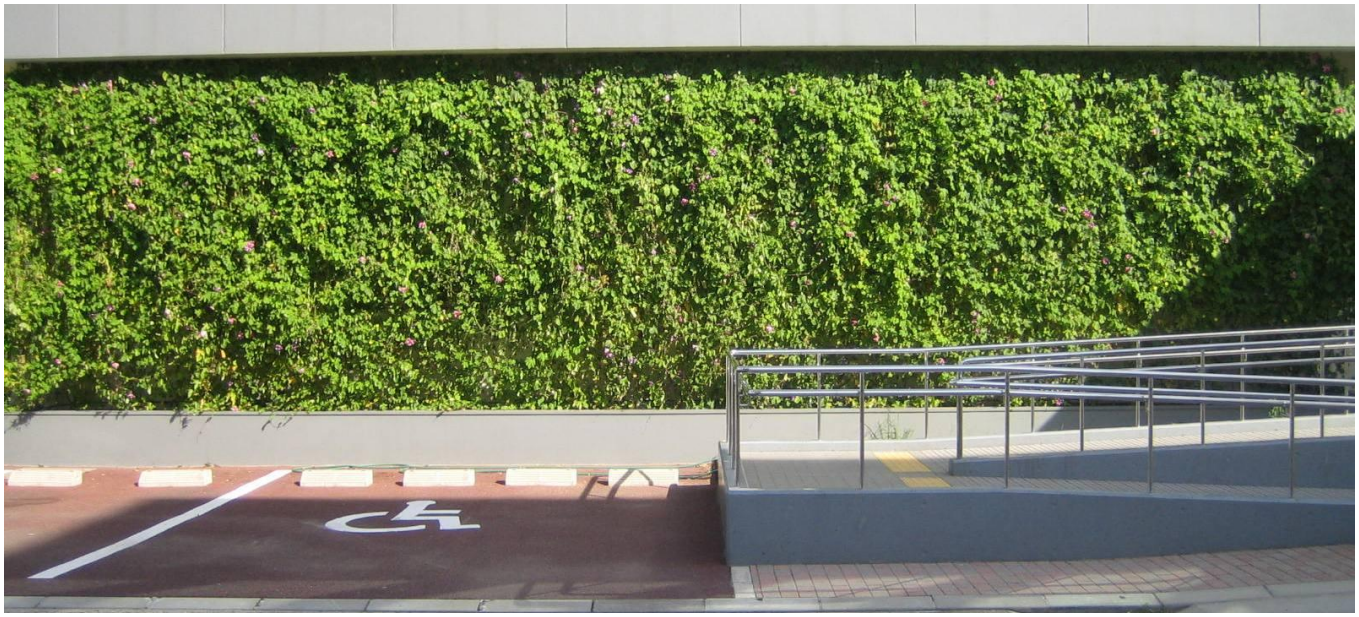
〇教室，校内の美化を維持するための教育面での指導を行う。

◎今年度から始めた教室の落書き消しへの一斉取り組みについては，前期２回，後期２回の計４回行った。また，一斉清掃の後，担任がＨＲのチェックを行い，その結果を管理簿に記載して提出する制度を設け，実施した。学生と教員による学内草取り清掃も６月と１０月に行った。

・本校の施設の運用に関しては温室効果ガスの排出抑制の検討をするとともに積極的にその実施を図る。

〇省エネを目的としたグリーンカーテンの整備を行う。

◎省エネを目的としたグリーンカーテンの整備を実施した。



図書館棟前のグリーンカーテン

②省エネ・コスト意識の徹底化を進め，管理的経費の抑制を図るとともに，施設，備品等の有効活用を推進する。

・光熱水費節減を徹底するため，巡回・監視体制を確立する。

〇省エネを徹底するために，夏期及び冬期のエアコン使用期間にパトロールを実施する。

◎省エネを徹底するため，夏季（平成２３年７～９月）省エネパトロール及び冬期（平成２３年１２月～平成２４年２月）省エネパトロールを実施した。具体的には室内の不要照明のチェックやエアコンの温度設定状況等について巡視し，光熱水費の節減に取り組んだ。またそれに併せ，パンフレットを構内の掲示板や教室に掲示し，省エネに対する意識高揚を実施した。

・各建物毎のエネルギー(電力，水道等)使用状況の把握・公表に向けて検討する。

〇運営委員会において，校舎地区・学寮地区における光熱水費について，３ヶ月単位で報告を行う。

◎過去３年分（平成 21 年度～平成 23 年度）における光熱水費について，３ヶ月単位の報告を行った。

・学内を挙げた省エネ運動を実施する。

・会議資料等のペーパーレス化を促進する。

〇会議資料について現状を把握し，省略できる資料等についての検討を行う。

◎会議資料の省略できるものについて，現状把握と検討を行った。そして教員会議の資料を事前にメール配布するとともに，他の会議についても資料や議事録などをホームページに掲載することなど，資料のペーパーレス化に努めた。

・定期的に施設・備品等の使用状況を確認し，有効活用の促進を図る。

〇施設の利用状況，物品の使用状況について，年１回の巡視を行う。

◎施設の利用状況について，巡視を行った。物品については，物品検査時に使用状況の調査を行った。

③運用面の改善と平行し，積極的な設備投資を行い，施設・設備面の改善を推進する。

・自動節電・節水装置の設置，高効率型照明器具への更新，建物の断熱化等を推進する。

〇修繕，取替時に自動節電・節水装置を設置する。

◎改修時に LED 照明器具，人感センサーを整備し、電気製品の更新時には、省エネタイプのものに取り替えた。

◎２３年度営繕事業により女子寮の内部改修を行うとともに，蒸気暖房を取り止め，リースによるエアコン整備も行った。

・施設の大規模改修を行う際には，太陽光発電，雨水再利用システム等，自然エネルギーを利用した設備の導入を検討する。

〇施設改修予算が措置された場合，太陽光発電等の自然エネルギーを利用した設備の導入を検討する。

◎今後、設備改修の際に、自然エネルギーを利用した設備の導入を検討する。

８　環境マネジメントシステムの組織・体制及び環境目的・環境目標とその取組状況

別紙３のとおり，校長を総責任者として，全教職員及び学生で取り組むこととしている。この計画に対する取り組みの状況は別紙４の通りで、概ね達成できた。

９　法規則遵守の状況

遵守した。

１０　環境教育・研究の状況

① 環境教育に関する状況

本科生については，社会科学関連科目において環境・エネルギー問題について教育を行っている。更に，物質工学科所属学生を中心に講義，演習，実験を通じて，環境関連の学習を行った。

専攻科生については，次の授業を開講した。

〇環境と社会

環境問題について，文明論的，社会学的，地球科学的な視点から講義をした。

〇技術者倫理

環境問題を企業に勤務する技術者の倫理の点から考える講義をした。

〇環境科学

地球規模の諸問題，日本における諸問題を，具体的事例を交えて講義した。

〇環境制御工学

水質汚濁について発生から機構，環境への影響，防止対策，処理技術，測定技術について講義をした。

〇教養化学

物質の構成や化学反応について学んだ後，環境問題について講義した。

本科については，次の授業を開講した。

〇現代社会

現代社会の特質，青年期の心理学等の身近で切実な問題の外，地球環境問題，資源・エネルギー問題或いは人口問題といった現代文明が直面する課題を講義した。

〇環境安全工学

環境問題，環境管理，廃棄物問題と循環型社会について講義した。

これらの他に，宇部高専では，平成２２年度から導入教育の一環としてマトリックス型基盤教育を行っており、その中で環境をテーマとして取り入れている。

平成２３年度は、技術と環境保全を基盤に本科生１，２年生全員に５回の授業を行った。

また，公害問題，宇部の大気汚染に対する取り組み，明治時代における環境問題解決の事例を学生に講義した。

環境問題などテーマ

学科の枠超えた学習開始

宇部高専

宇部高専（福政修校長）で31日、特色ある教育スタイル「マトリックス型基盤教育プログラム」の開講式が行われた。1年生全員206人が一堂に集まり、学科の枠を超えて学ぶ同プログラムのスタートを切った。

同プログラムは、昨年から始まった新しい教育方法。物質工学、制御工学、電気工学、機械工学、経営情報の各科の枠を取り払い、同学年の生徒たちが環境、安全をキーワードに机を並べて学習する。目的は学習意欲の向上と、技術者としての倫理観の醸成。専門課程が本格化する4年生への進級を前にした1～3年生が対象で、昨年度の1年生から取り入れた。

式では福政校長が「社会で求められる自ら考え、行動し、信頼される技術者や研究者になるため、専門の枠に閉じこもらず、広く学ぶ姿勢を身に付けてもらいたい。ここで学ぶことは、全学科に共通するものでもある。挑戦し、探求し、高く羽ばたく高専生へと成長してほしい」と激励した。

プログラムは、合同ホームルームの時間を使い、年間10回程度開催。1年生は、宇部の公害対策の歴史など、2年生は再生可能エネルギーに関わる環境問題などについて勉強する。（岩本）

福政校長の話を聞く1年生（宇部高専で）

マトリックス型基盤教育プログラム関連記事【宇部日報：平成２３年６月１日】

② 環境に関する共同研究等の状況

環境に関する共同研究等については，別紙５のとおり，受託研究１件，共同研究２件，科学研究費補助金２件である。

１１ 事業活動に伴う環境負荷及び低減に向けた取組

① 光熱水の状況

本校は，教育研究の中心の場としての校舎地区（運動場・プールを含む。），学生の生活の場としての寄宿舎地区で構成されており，２３年度の使用量について，前年度と比較すると別紙６－１～３のとおりとなった。また、参考として２０年度からのものを別紙６－４として添付する。

光熱水の使用量に影響を与える天候等の要因については，前年度と同様，夏季が猛暑，冬季が厳冬であったため、空調機使用期間を夏季，冬季共に延長して運用した。

○ 電気使用量については，前年度比で，校舎地区 1.25%(18,948kWh)減，寄宿舎地区 0.27%(1,362kWh)増となった。

校舎地区に関しては、２２年度に夏期と冬期の電力使用量が最大となった８月、１月の電力量が２３年度はそれぞれ5.57%(8,196kWh),6.27%(10,284kWh)ほど昨年度よりも減少した。これはデマンド監視システムを導入し、契約電力超過警報により節電を呼びかけることの効果の現れと考えられる。このことにより、２４年度はより低い電力で電力会社と契約している。寄宿舎地区では２２年度に夏期と冬期の電力使用量が最大となった７月、２月の電力量が２３年度はそれぞれ 4.00%(2,362kWh)減,15.66%(8,455kWh)増となった。これは女子寮でのエアコン運転開始によるものと思われる。

○　ガス使用量については，前年度比で，校舎地区 0.68%(228㎥)増，寄宿舎地区 16.99%(1,532㎥)減となった。校舎地区においては，ほぼ横ばいで、省エネパトロール等の効果があまり認められない。寄宿舎地区においては２０～２２年度を下回っており、節約の呼びかけの効果が認められる。

○　水道使用量については，前年度比で，校舎地区 1.36%減(151㎥)，寄宿舎地区 0.22%減(53㎥)となった。

校舎地区においては、前々年度に比べかなり増加したままのため，更なる節水の呼びかけの必要がある。寄宿舎地区では、ほぼ横ばいではあるが、過去３年間と比較すると若干使用量が減っている。

２０年度からのデータを見ると、光熱水道の使用量は，増加したままか、多少の減少はあってもほぼ横ばいとなっている。天候が大きく左右される要因となる場合も多々あるが，今後もなお一層の省エネに努める必要がある。

② 新エネルギー利用状況

平成１１年度に校舎地区に導入した太陽光発電設備は，定格出力４０kVA で，校舎地区の使用電力の一部を補っている。平成２３年度の発電量は，４４，０６３kwh であった。これは使用電力の２．９５%にあたる。

太陽光発電パネル

③ 生ゴミ等の排出状況

本校の生ゴミ等は，契約を締結している有資格業者が運搬・処分しており，その大部分は宇部市環境保全センターへ搬出している。平成２３年度の処分量については，別紙７のとおり，平成２２年度比 9.40%減となった。

④ 産業廃棄物の排出状況

本校の産業廃棄物は，契約を締結している有資格業者へ処分依頼した。２３年度の処分量については，別紙８のとおりである。

⑤　公用自動車の使用状況

ワゴン車２台，トラック１台，スクールバス１台を所有している。

ワゴン車２台については，来学者の送迎，各課の諸業務，教員の教育研究，地域社会との交流，県内教育機関との会議・打ち合わせ，学生課外活動等，頻繁に利用した。

トラックは，構内物品移動，実験資材の運搬，地域行事への参加等に利用した。利用頻度はワゴン車ほど高くないが，必要性は高い。

スクールバスは，宿泊研修，工場見学、海外インターンシップでの送迎をはじめ，課外活動での遠征用として利用した。

また，市内における業務においてワゴン車２台がすでに使われているときや寄宿舎入寮者の急患などにはタクシーを借り上げた。

近年は，県内各中学校へ出向いての学校紹介，入試情報の提供等で使用回数が増える傾向にある。

⑥　グリーン購入の状況

グリーン購入に努め，概ね達成できた。

１２　温室効果ガス（CO_2）の排出の状況

本校の温室効果ガス（CO_2）の排出は，電気，ガス（都市ガス），給湯ボイラー用のＡ重油，公用車のガソリン，軽油，冬季の暖房用としての灯油が該当し，２２年度と２３年度の排出量を比較した。

校舎地区においては，２２年度１，１９２トンに対し，２３年度は１，１７２トンと１．６８%(約２０トン)減少した。

寄宿舎地区においても，２２年度６０２トンに対し，２３年度は５３９トンと１０．５%(約６３トン)減少した。

学校全体としては，２２年度に１，７９４トンに対し，２３年度は１，６１１トンと１０．２%(約１８３トン)の減少となった。（別紙９）

２３年度は前年度に比べて約１０%のCO_2減少となった。昨今の異常気象により，冷暖房の使用が増加傾向にある中でのCO_2削減だが、更なる削減のために努める必要がある。

なお，２３年度は，太陽光発電により４４，０６３kWh 発電しており，温室効果ガス（CO_2）に換算すると２８．９４９[ｔ－CO_2]であり，本校全排出量の約１．８０%に相当し，些少なから温室効果ガスの排出抑制ができた。

温室効果ガス実排出係数は０．０００６５７[t-CO_2/kWh]（中国電力管内における平成２３年度分：平成２４年１１月環境省発表）を用いて計算した。

１３　その他学内の取組の状況

①　エコフェア２０１１　ｉｎ　ＵＢＥへの出典

１０月２９日（土)、３０日（日）に，宇部市主催による「第２回 エコフェア２０１１ ｉｎ ＵＢＥ」が宇部市常盤公園で開催され，宇部市，山口県の企業や大学、市民団体など、３８団体が出展し、太陽光発電、省エネ、ダンボールコンポスト、その他環境に優しい取り組みの紹介等を行った。大学・高専・高校等の出展では，本校の他、山口大学工学部が参加した。

本校からは，機械工学科の徳永仁夫准教授、渡邉大講師が出展した。その中でソーラーカーの展示と試乗、スターリングエンジンの展示と実動実験、燃料電池ラジコンカーの操作、形状記憶合金熱エンジンの展示、燃料電池・太陽光発電・風力発電など環境技術の紹介等を実施した。あいにくの雨天ではあったが、参加した小学生や家族連れの多くが興味・関心を持っていた。

本校では，夏期の公開講座や小中学校への出前授業等を企画しており，その中においても環境を重視した取り組みとして、省エネ、環境保全等をテーマとして取り上げている。

展示物を参加者に説明する学生

出展した教員・学生

②　構内清掃活動

構内の草刈り等について，学生課が８月に寄宿舎地区，総務課が５月と８月に校舎地区をそれぞれ実施し，作業により出た剪定枝，草，ゴミ等は，廃棄物収集運搬業者を通じて，市の環境保全センターへ搬出した。

学寮では例年同様、定期試験後の一斉清掃を実施し，相当奇麗になった。しかし清掃後にすぐ汚してしまうため，平成２４年度後半から指導教員立ち会いのもとでの隔週清掃を計画している。

③　ごみ減量の活動

電子メールを利用した諸連絡，諸会議資料の両面印刷等に努め，紙の使用量を減らす努力を引き続き行った。また，再利用可能な備品等は，学内での再利用を呼びかけ，機器等の廃棄物減量に引き続き努めた。

（ロッカー，会議用テーブル，会議用椅子，パイプ椅子，プリンタ，リサイクルトナー等，）

④ 省エネ対策

夏季に５日間の一斉休業を実施した。

⑤ 毒・劇物の管理状況

平成２３年８月と１２月の安全パトロール実施時に，毒・劇物の保管場所，保管方法等の管理の状況を点検した。（点検結果については、別紙４参照）

⑥ 教職員の通勤に関する状況

本校は，宇部市中心部から幾分離れ，住宅地の広がる小高い丘に位置する。最寄りの駅は２㎞程度離れ，市内を走るバス路線は本校前を通っているものの便数が少ない。このため，片道通勤距離が２ｋｍ以上の教職員については，本人の申請に基づき審査の上，自家用車での通勤を許可している。

１４　その他

①環境報告書に関する問い合わせ先

宇部工業高等専門学校　総務課施設係

TEL：０８３６－３５－４９７２

E-mail：sisetsu@ube-k.ac.jp

②本校のホームページアドレス

http://www.ube-k.ac.jp

別紙　1

建物一覧

地　区	建物名称	構　造	建面積	延面積
校舎地区	管理棟	RC3	891㎡	2,512㎡
	機械電気棟	RC3	641㎡	1,947㎡
	一般科棟	RC3	667㎡	2,030㎡
	物質棟	RC4	1,088㎡	4,056㎡
	制御棟	RC4	238㎡	837㎡
	経営棟	RC4	427㎡	1,639㎡
	専攻科棟	RC4	498㎡	1,870㎡
	地域共同テクノセンター棟	RC2+S2+SS4	297㎡	977㎡
	実習工場	SS1	1,058㎡	963㎡
	機械実験棟	RC2+S2	600㎡	621㎡
	図書館棟	RC3	1,080㎡	2,491㎡
	バス車庫	CB1	54㎡	54㎡
	物品倉庫	CB1	129㎡	129㎡
	守衛所	CB1	17㎡	17㎡
	薬品室1	CB1	20㎡	20㎡
	薬品室2	RC1	32㎡	32㎡
	ものづくり工房	RC1	132㎡	132㎡
	第1体育館	SS1	1,003㎡	1,003㎡
	第2体育館	SS1	988㎡	988㎡
	武道場	RC1	297㎡	297㎡
	情報処理室	RC1	42㎡	42㎡
	学生会館・専攻科（経営情報工学専攻）	RC2+S2	394㎡	823㎡
	油庫	RC1	13㎡	13㎡
	小　計		10,606㎡	23,493㎡
寄宿舎地区	クラブハウス	RC3	180㎡	547㎡
	北東寮棟	RC4	217㎡	832㎡
	北寮棟	RC3	470㎡	1,381㎡
	管理棟	RC4	177㎡	694㎡
	新寮棟	RC4	783㎡	2,839㎡
	中寮棟	RC3	290㎡	866㎡
	南寮棟	RC3	290㎡	866㎡
	食堂棟	RC+SS2	556㎡	790㎡
	浴場棟	RC1	180㎡	180㎡
	ボイラー棟	RC1	108㎡	108㎡
	物品倉庫	CB1	30㎡	30㎡
	小　計		3,281㎡	9,133㎡
その他	屋外運動場付施設	CB1	168㎡	168㎡
	プール付属室	RC1	87㎡	76㎡
	小　計		255㎡	244㎡
合　計			14,142㎡	32,870㎡

建物配置図
Campus Map

❶管理棟　Adininistralinn Wing
❷一般棟　General Education Wing
❸物質棟　Chemicai and Biological Engineering Wing
❹機電棟　Mechanical/EIectrical Engineering Wing
❺情報処理室　Data Processing Center
❻実習工場　Training Shop
❼制御情報工学科棟　Intelligent System Engineering Wing
❽地域共同テクノセンター　Collaborative Research Center
❾機械工学実験棟　Machinery Test Wing
❿経営情報学科棟　Business Administration Wing
⓫専攻科棟　Advanced Course Wing
⓬第二体育館　No.2 Gymnasium
⓭テニスコート　Tennis Court
⓮図書館棟　Library Wing
⓯学生会館・専攻科棟(経営情報工学専攻)
Student Union·Advanced Course Wing for Business Administration
⓰第一体育館　No.1 Gymnasium
⓱武道場　Martial Aits Center
⓲ものづくり工房　Manufacturing Workshop
⓳守衛所　Guard House
⓴外来者用駐車場　Parking for visitors
㉑教職員用駐車場　Staff carparking
㉒教職員用駐車場　Staff carparking
㉓教職員用駐車場　Staff carparking
㉔外来者用駐車場　Parking for visitors
㉕寮管理棟　Dormitory Administration Wing
㉖新寮　New Dormitory Wing
㉗中寮　Center Dormitory Wing
㉘南寮　South Dormitory Wing
㉙北寮　North Dormitory Wing
㉚クラブハウス　Club House
㉛北東寮　Northeast Dormitory Wing
㉜寮食堂棟　Dormitory Cafeteria Wing
㉝浴場棟　Bath Wing
㉞ボイラー室　Boiler Room
㉟屋外運動場付属施設
Facilities Attached to the Outdoor Sports Grounds
㊱プール付属室　Room Attached to the Swimming Pool
㊲水泳プール　Swimming Pool
㊳野球場　Baseball Ground
㊴ラグビーコート
サッカーコート
Rugby and Soccer Ground

別紙２

宇部工業高等専門学校の環境方針

１．基本理念

宇部工業高等専門学校は，地球環境問題が現在における最重要課題のひとつであると考えます。地球環境保全への貢献のためには，教育・研究を積極的に展開していくことが重要であり，地域環境との共生を柱とした環境との調和と環境負荷の低減に努めます。

２．基本方針

1. すべての活動によって発生する地球環境に対する負荷の低減と汚染の予防に努める。
2. 地域社会との連携による環境保全活動に積極的に参画するとともに環境保全技術に関する教育・研究の実践を進める。
3. すべての活動に係わる環境関連法規，条例，協定等を遵守する。
4. この環境方針を達成するため，環境目的及び目標を設定し，教職員及び学生が協力してこれらの達成に努める。
5. 環境マネジメント組織を確立し，環境目的及び目標の定期的な見直しと継続的な改善を実施する。

本校は，この環境方針を全教職員及び全学生に周知するとともに，
公式ホームページを用いて一般の人に開示します。

平成 18 年 5 月 9 日
宇部工業高等専門学校

別紙3

宇部工業高等専門学校環境マネジメント組織・運用体制

本校の環境方針に基づく環境目的・目標を達成するための運用体制は次のとおりとする
各担当部署は、役割及び責任を認識し、積極的に環境問題に取り組まなければならない

各部門環境責任者	
総務課部門環境責任者	総務課長
学生課部門環境責任者	学生課長
機械工学科部門環境責任者	学科長
電気工学科部門環境責任者	学科長
制御情報工学科部門環境責任者	学科長
物質工学科部門環境責任者	学科長
経営情報学科部門環境責任者	学科長
一般科文系部門環境	一般科文系科長
一般科理系部門環境責任者	一般科理系科長
専攻科部門環境責任者	専攻科長
図書館部門環境責任者	図書館長
情報処理センター部門環境責任者	情報処理センター長
地域共同テクノセンター部門環境責任者	地域共同テクノセンター長
技術室部門環境責任者	技術室長

宇部工業高等専門学校環境マネジメントシステムの役割と責任

校　長

・校長は、環境に配慮した事業活動を推進するための環境マネジメントシステムを円滑に運用する責任と権限を有する。
・環境方針・環境目的及び目標を決定する。
・環境マネジメント委員を指名する。
・環境マネジメントシステムの実施に必要な資源（人、専門知識、技術、資金）を確保する。

環境マネジメント委員会

・校長の諮問に応じて次のことを行う。
　環境方針に関すること。
　環境目的及び目標に関すること。
　環境目的及び目標の実施計画並びに達成状況の確認。
　環境報告書の作成及び公表に関すること。
　その他、環境関連法規等の遵守に関すること。

環境管理責任者（事務部長）

・環境管理責任者は、環境マネジメントシステムを実施するための権限が付与される。
・環境管理責任者は、見直し及び改善のため、校長に環境マネジメントシステムの実施状況を報告する。

部門環境責任者

・部門環境責任者は、部門内の環境マネジメントシステムの実施について責任を有する。
・部門環境責任者は、見直し及び改善のため、環境管理責任者に意見を述べ又は提案することができる。

教職員及び学生

・教職員及び学生は、環境マネジメントシステムの実施に協力しなければならない。
・教職員及び学生は、見直し及び改善のため、部門環境責任者に意見を述べ又は提案することができる。

「宇部工業高等専門学校の環境方針」を達成するための環境目的及び環境目標

宇部工業高等専門学校は、地球環境問題が現在における最重要課題のひとつであることを認識したうえで、地球環境保全への貢献のため、教育・研究を積極的に展開していくとともに、地域環境との共生を柱とした環境との調和と環境負荷の低減につとめるため、次のとおり具体的な行動計画を定める。

区　分	環境目的	環境目標	行　動　内　容	責 任 者
高専の特徴を生かした環境教育・研究の促進	環境教育の推進	環境意識の向上	環境意識の啓蒙	環境管理責任者（事務部長）
			各室週1回の清掃活動の実施	各部門環境責任者
			教室週1回の清掃活動の実施	教務主事
			構内一斉清掃の実施（春・夏・秋）	教務主事
			環境関連事項を取り入れた授業実施の依頼	環境管理責任者（事務部長）
			環境関連事項を取り入れた授業の実施	教務主事
	環境研究の推進	環境関連研究の実施	環境関連研究の実施	各部門環境責任者
			環境関連共同研究等の実施	
			研究成果の公表	
環境との調和と環境負荷の低減	無駄なエネルギー	省エネ活動の推進	省エネのPR活動等	総務課部門環境責任者
			省エネパトロール	総務課部門環境責任者
			省エネ機器への切り替え	各部門環境責任者
			夏季の一斉休業の実施	総務課部門環境責任者
			水道光熱使用実績の把握公表	総務課部門環境責任者
			[電気]	各部門環境責任者
			不使用時の消灯の徹底	
			電気機器の節電	
			空調運転の温度厳守	
			その他節電に必要な対策	
			[上下水道]	
			節水の徹底	
			漏水等の確認修理	
			その他節水に必要な対策	
			[ガス]	
			空調運転の温度厳守	
			その他節約に必要な対策	
	一般廃棄物の減量	ごみの分別の徹底	ごみ減量の推進	各部門環境責任者
			ごみの分別	各部門環境責任者
			ごみ減量と分別のPR活動	総務課部門環境責任者
			ごみの分別環境の整備	
			ごみの適正な処分	
			排出量の把握	
			不要になった物品の校内HP上への公開	
	産業廃棄物の排出量削減	排出状況、排出量の把握	排出状況、排出量の把握	総務課部門環境責任者
			産業廃棄物の適切な保管	各部門環境責任者
			排出手続きの法遵守	
			産業廃棄物処分の適正な処分	総務課部門環境責任者
	グリーン購入の取組推進	グリーン対象製品の購入	実績の調査	総務課部門環境責任者
	化学物質等の適正管理の維持	毒物・劇物及び高圧ガス等の適切な保管・管理	毒物・劇物及び高圧ガスの適切な保管	各部門環境責任者
			毒物・劇物及び高圧ガスの使用(保管)状況の把握	総務課部門環境責任者
			毒物・劇物及び高圧ガスの使用(保管)の監査	総務課部門環境責任者
地域との連携	社会貢献の推進	清掃活動等の実施	学外清掃活動等学生の自主的な活動の実施	学生主事

「宇部工業高等専門学校の環境方針」を達成するための環境目的及び環境目標に基づく行動計画

区　分	環境目的	環境目標	行　動　内　容	責 任 者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高専の特徴を生かした環境教育・研究の促進	環境教育の推進	環境意識の向上	環境意識の啓蒙	環境管理責任者（事務部長）	○											
			各室週1回の清掃活動の実施	各部門環境責任者	○											
			教室週1回の清掃活動の実施	教務主事	○											
			構内一斉清掃の実施（春・夏・秋）	教務主事		○	○		○		○					
			環境関連事項を取り入れた授業実施の依頼	環境管理責任者（事務部長）											○	
			環境関連事項を取り入れた授業の実施	教務主事	○											
	環境研究の推進	環境関連研究の実施	環境関連研究の実施	各部門環境責任者	○											
			環境関連共同研究等の実施		○											
			研究成果の公表		適宜											
環境との調和と環境負荷の低減	無駄なエネルギー	省エネ活動の推進	省エネのPR活動等	総務課部門環境責任者					○					○		
			省エネパトロール	総務課部門環境責任者					○					○		
			省エネ機器への切り替え	各部門環境責任者	○											
			夏季の一斉休業の実施	総務課部門環境責任者					○							
			水道光熱使用実績の把握公表	総務課部門環境責任者	適宜											
			[電気]	各部門環境責任者												
			不使用時の消灯の徹底		○											
			電気機器の節電		○											
			空調運転の温度厳守						○				○			
			その他節電に必要な対策		適宜											
			[上下水道]													
			節水の徹底		○											
			漏水等の確認修理		適宜											
			その他節水に必要な対策		適宜											
			[ガス]													
			空調運転の温度厳守		○											
			その他節約に必要な対策		適宜											
	一般廃棄物の減量	ごみの分別の徹底	ごみ減量の推進	各部門環境責任者	○											
			ごみの分別	各部門環境責任者	○											
			ごみ減量と分別のPR活動	総務課部門環境責任者	適宜											
			ごみの分別環境の整備													○
			ごみの適正な処分		○											
			排出量の把握		○											
			不要になった物品の校内HP上への公開		適宜											
	産業廃棄物の排出量削減	排出状況、排出量の把握	排出状況、排出量の把握	総務課部門環境責任者	○											
			産業廃棄物の適切な保管	各部門環境責任者	○											
			排出手続きの法遵守		○											
			産業廃棄物処分の適正な処分	総務課部門環境責任者	○											
	グリーン購入の取	グリーン対象製品	実績の調査	総務課部門環境責任者												○
	化学物質等の適正管理の維持	毒物・劇物及び高圧ガス等の適切な保管・管理	毒物・劇物及び高圧ガスの適切な保管	各部門環境責任者	○											
			毒物・劇物及び高圧ガスの使用(保管)状況の	総務課部門環境責任者					○				○			
			毒物・劇物及び高圧ガスの使用(保管)の監査	総務課部門環境責任者					○				○			
地域との連携	社会貢献の推進	清掃活動等の実施	学外清掃活動等学生の自主的な活動の実施	学生主事	随時											

平成23年度　環境目的及び環境目標に基づく行動計画に対する取組状況調査

「宇部工業高等専門学校の環境方針」を達成するための環境目的及び環境目標に基づく行動計画																	実施状況
区　分	環境目的	環境目標	行　動　内　容	責 任 者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
高専の特徴を生かした環境教育・研究の促進	環境教育の推進	環境意識の向上	環境意識の啓蒙	環境管理責任者（事務部長）	○												適宜行った。
			各室週1回の清掃活動の実施	各部門環境責任者	○												週1回の定期ではないが、ほぼ実施されている。
			教室週1回の清掃活動の実施	教務主事	○												1～3年生はHR時に、4，5年生は空き時間を利用して実施した。毎日実施されている教室もある。
			構内一斉清掃の実施（春・夏・秋）	教務主事		○	○		○		○						定期試験前の年4回及び、6月と10月に学生・教員による清掃、8月と10月に職員による清掃、草刈りを実施した。
			環境関連事項を取り入れた授業実施の依頼	環境管理責任者（事務部長）											○		実施した。
			環境関連事項を取り入れた授業の実施	教務主事	○												実施した。
	環境研究の推進	環境関連研究の実施	環境関連研究の実施	各部門環境責任者	○												実施した。
			環境関連共同研究等の実施		○												実施した。
			研究成果の公表		適宜												適宜、実施した。
	無駄なエネルギー	省エネ活動の推進	省エネのPR活動等	総務課部門環境責任者				○					○				特に、省エネパトロールや安全パトロールの際に行った。
			省エネパトロール	総務課部門環境責任者				○					○				夏季、冬季に実施した。
			省エネ機器への切り替え	各部門環境責任者	○												適宜、実施した。
			夏季の一斉休業の実施	総務課部門環境責任者					○								実施した。
			水道光熱使用実績の把握公表	総務課部門環境責任者	適宜												環境報告書で公表予定。
			[電気]														
			不使用時の消灯の徹底		○												窓口業務があり、昼休み時間も消灯できない部署以外はほぼ実施されている。
			電気機器の節電		○												各部署で心がけられている。
			空調運転の温度厳守					○				○					概ね、夏期の28度、冬期の20度が厳守された。担当教員が見回りを行った。
			その他節電に必要な対策		適宜												可能な範囲で実施しており、学生へは省エネを心がけるよう指導している。
			[上下水道]														

平成23年度　環境目的及び環境目標に基づく行動計画に対する取組状況調査

「宇部工業高等専門学校の環境方針」を達成するための環境目的及び環境目標に基づく行動計画																実施状況
区　分	環境目的	環境目標	行　動　内　容	責 任 者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
環境との調和と環境負荷の低減			節水の徹底	各部門環境責任者					○								概ね、節水意識をもって、適切に行われた。 張り紙を行い徹底している部署もある。 物質工学科では機器の導入により節水を徹底している。
			漏水等の確認修理						適宜								実施した。
			その他節水に必要な対策						適宜								不必要に使用しないようにし、早めの止水を心がけている。
			[ガス]														
			空調運転の温度厳守						○								概ね、厳守された。
			その他節約に必要な対策						適宜								必ず元栓を締めるようにしている。
	一般廃棄物の減量	ごみの分別の徹底	ごみ減量の推進	各部門環境責任者					○								両面コピーの徹底などにより、紙の節約を行った。また、書き損じ、段ボール等、再利用できるものは再利用した。 物質工学科においては、使用済み有機溶剤の蒸留･精製によるリサイクル使用を試みるなどしてゴミの減量に努めている。
			ごみの分別	各部門環境責任者					○								種別のゴミ箱の設置、指定ゴミ袋の使用、その他金属材料等の分別が実施されている。
			ごみ減量と分別のPR活動	総務課部門環境責任者					適宜								適宜実施している。
			ごみの分別環境の整備													○	整備済
			ごみの適正な処分						○								資格を持った業者に処分を依頼した。
			排出量の把握						○								概ね、把握した。
			不要になった物品の校内HP上への公開						適宜								再利用可能と判断した物品について、メールにより、再利用を呼びかけ、再利用した。
	産業廃棄物の排出量削減	排出状況、排出量の把握	排出状況、排出量の把握	総務課部門環境責任者					○								概ね、把握した。
			産業廃棄物の適切な保管	各部門環境責任者					○								一般廃棄物、廃液等を区分し、種類に応じて適切な容器に入れた上で指定保管場所に保管している。
			排出手続きの法遵守						○								遵守されていた。
			産業廃棄物処分の適正な処分	総務課部門環境責任者					○								資格を持った業者に処分を依頼した。

平成23年度　環境目的及び環境目標に基づく行動計画に対する取組状況調査

「宇部工業高等専門学校の環境方針」を達成するための環境目的及び環境目標に基づく行動計画																実施状況
区　分	環境目的	環境目標	行　動　内　容	責 任 者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	グリーン購入の取組推進	グリーン対象製品の購入	実績の調査	総務課部門環境責任者												○	グリーン購入に努めた。
	化学物質等の適正管理の維持	毒物・劇物及び高圧ガス等の適切な保管・管理	毒物・劇物及び高圧ガスの適切な保管	各部門環境責任者	○												毒物・劇物は専用の鍵が掛かる保管庫で保管し，残量を量っている。高圧ガスボンベは適切なスタンドに立てている。実習工場においてはボンベ庫に保管、年1回ガス集合装置特定自主点検を実施した。
			毒物・劇物及び高圧ガスの使用(保管)状況の把握	総務課部門環境責任者					○				○				安全パトロールにより把握した。
			毒物・劇物及び高圧ガスの使用(保管)の監査	総務課部門環境責任者					○				○				安全パトロールの際に、状況を確認し、適正に使用、保管されていた。
地域との連携	社会貢献の推進	清掃活動等の実施	学外清掃活動等学生の自主的な活動の実施	学生主事	随時												定期的に学校行事として実施。

環境に関する共同研究等

共同研究・受託研究

共同・受託の別	相　　手　　方	研究担当者	研　　究　　題　　目	契約期間
受託研究	独立行政法人　日本科学技術振興機構	中野　陽一	液薄膜酸素供給方式による省エネルギー型高性能水質浄化システムの開発	23.8.1～24.3.31
共同研究	株式会社IHI	西野　順也	CO_2光還元触媒に関する研究	23.6.1～24.3.23
共同研究	パナソニック環境エンジニアリング株式会社	山崎　博人	窒素含有水の生物処理の設計	23.8.11～24.3.31

科学研究費補助金

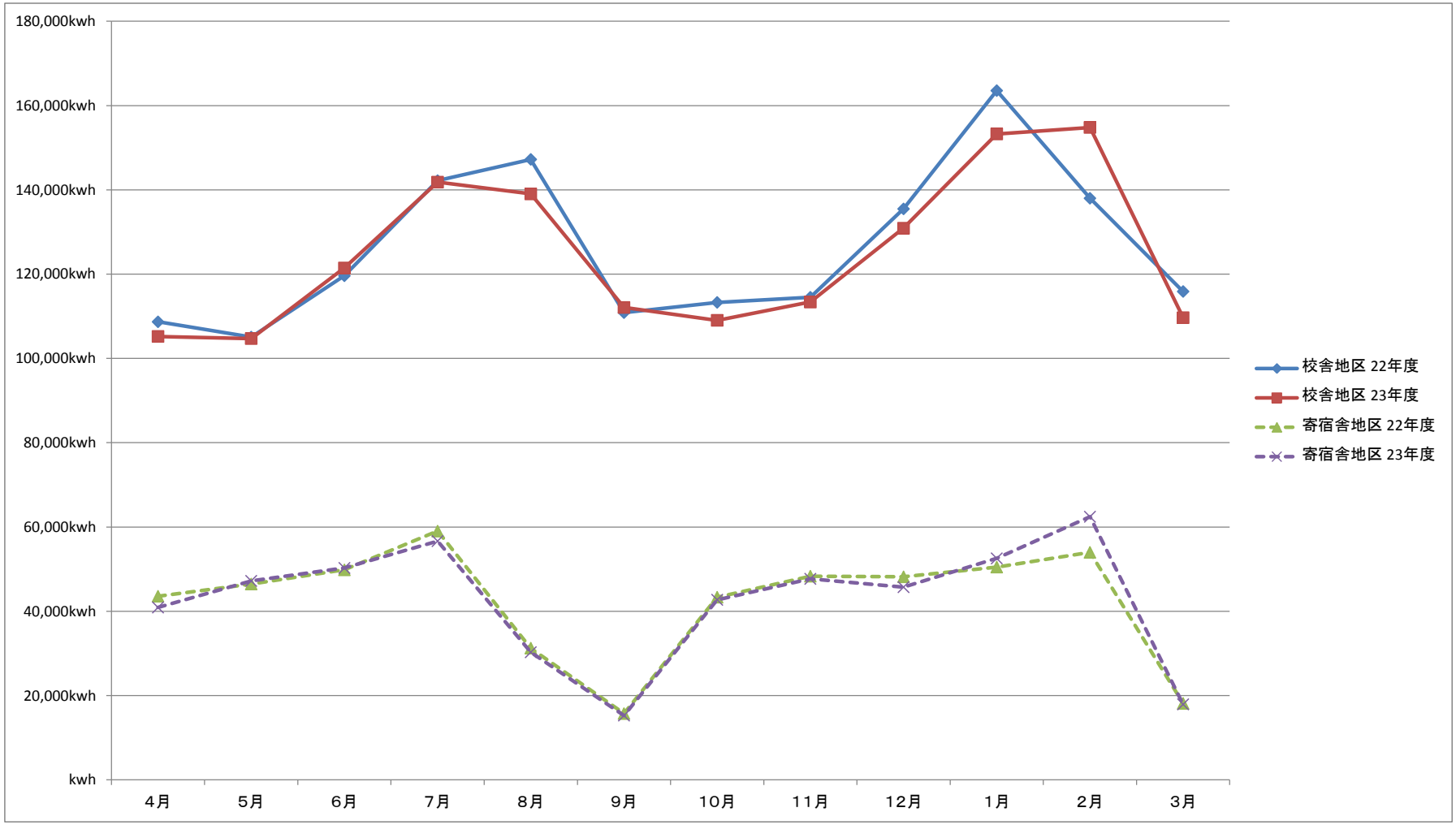
研究種目	研　　究　　題　　目	研究担当者
基盤(C)	亜硝酸化生物反応と亜臨界水熱反応による高濃度窒素含有工業廃水の処理技術の開発	山崎　博人
基盤(C)	アマモ種子供給でリンクした海域内の種母アマモ群落保全によるアマモ群落の間接的保全	中野　陽一

平成22-23年度　電気使用量の比較

地区	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
校舎地区	22年度	108,684kwh	105,072kwh	119,604kwh	142,188kwh	147,228kwh	110,856kwh	113,292kwh	114,516kwh	135,480kwh	163,548kwh	138,000kwh	115,884kwh	1,514,352kwh
	23年度	105,216kwh	104,712kwh	121,464kwh	141,828kwh	139,032kwh	112,092kwh	109,044kwh	113,376kwh	130,896kwh	153,264kwh	154,812kwh	109,668kwh	1,495,404kwh
寄宿舎地区	22年度	43,565kwh	46,469kwh	49,828kwh	59,021kwh	31,253kwh	15,723kwh	43,335kwh	48,324kwh	48,180kwh	50,489kwh	53,978kwh	18,127kwh	508,292kwh
	23年度	40,910kwh	47,203kwh	50,271kwh	56,659kwh	30,286kwh	15,271kwh	42,725kwh	47,693kwh	45,739kwh	52,548kwh	62,433kwh	17,916kwh	509,654kwh

22年度比

校舎地区	96.81%	99.66%	101.56%	99.75%	94.43%	101.11%	96.25%	99.00%	96.62%	93.71%	112.18%	94.64%	98.75%
寄宿舎地区	93.91%	101.58%	100.89%	96.00%	96.91%	97.13%	98.59%	98.69%	94.93%	104.08%	115.66%	98.84%	100.27%



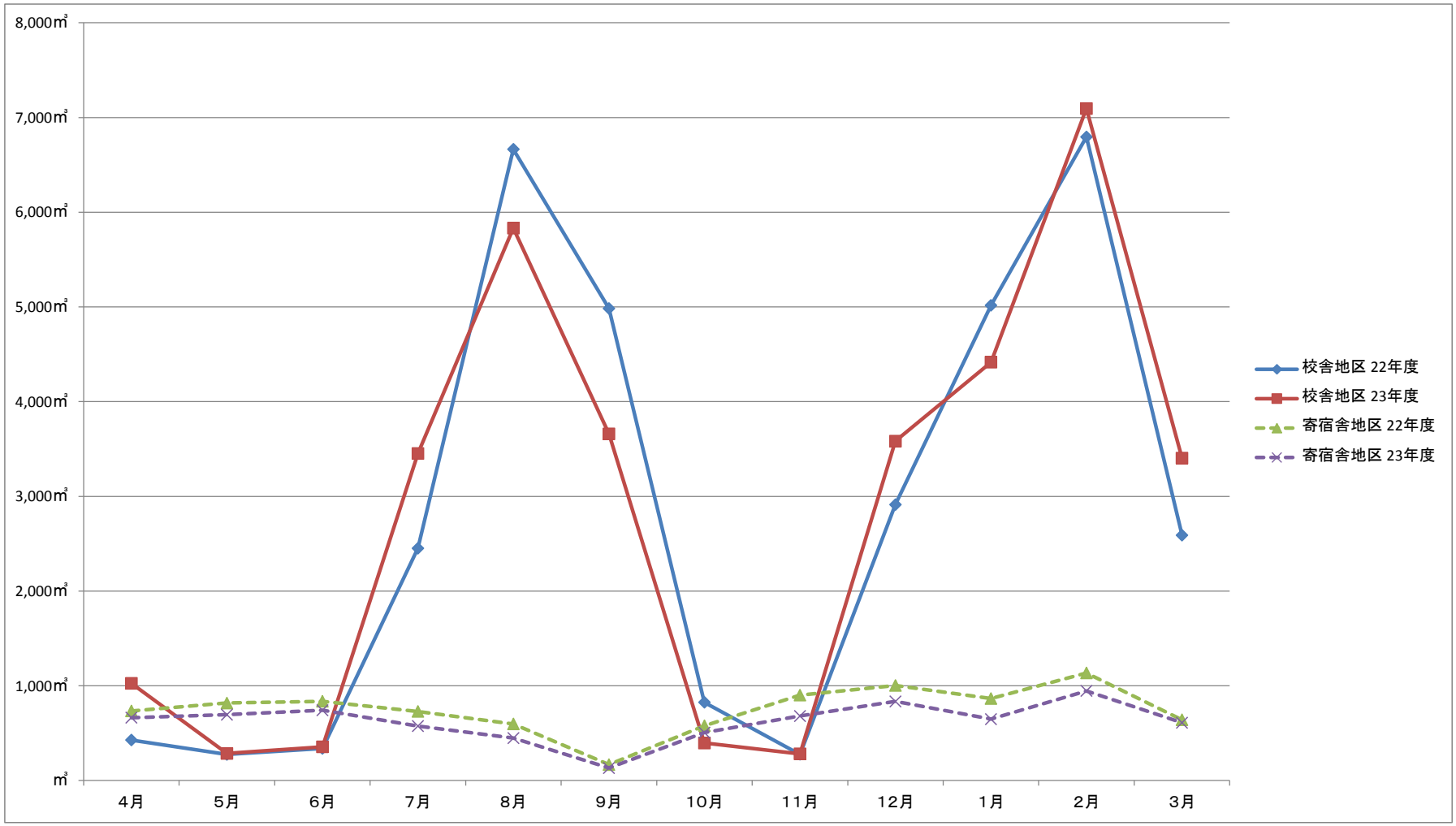
別紙6－1

平成22-23年度　ガス使用量の比較

地区	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
校舎地区	22年度	428㎥	275㎥	339㎥	2,452㎥	6,665㎥	4,984㎥	826㎥	277㎥	2,913㎥	5,017㎥	6,795㎥	2,590㎥	33,561㎥
	23年度	1,026㎥	286㎥	356㎥	3,453㎥	5,832㎥	3,660㎥	396㎥	282㎥	3,583㎥	4,417㎥	7,094㎥	3,404㎥	33,789㎥
寄宿舎地区	22年度	735㎥	818㎥	837㎥	730㎥	598㎥	168㎥	579㎥	902㎥	1,004㎥	866㎥	1,136㎥	642㎥	9,015㎥
	23年度	664㎥	695㎥	742㎥	575㎥	448㎥	132㎥	506㎥	681㎥	835㎥	648㎥	947㎥	610㎥	7,483㎥

22年度比

校舎地区	239.72%	104.00%	105.01%	140.82%	87.50%	73.43%	47.94%	101.81%	123.00%	88.04%	104.40%	131.43%	100.68%
寄宿舎地区	90.34%	84.96%	88.65%	78.77%	74.92%	78.57%	87.39%	75.50%	83.17%	74.83%	83.36%	95.02%	83.01%



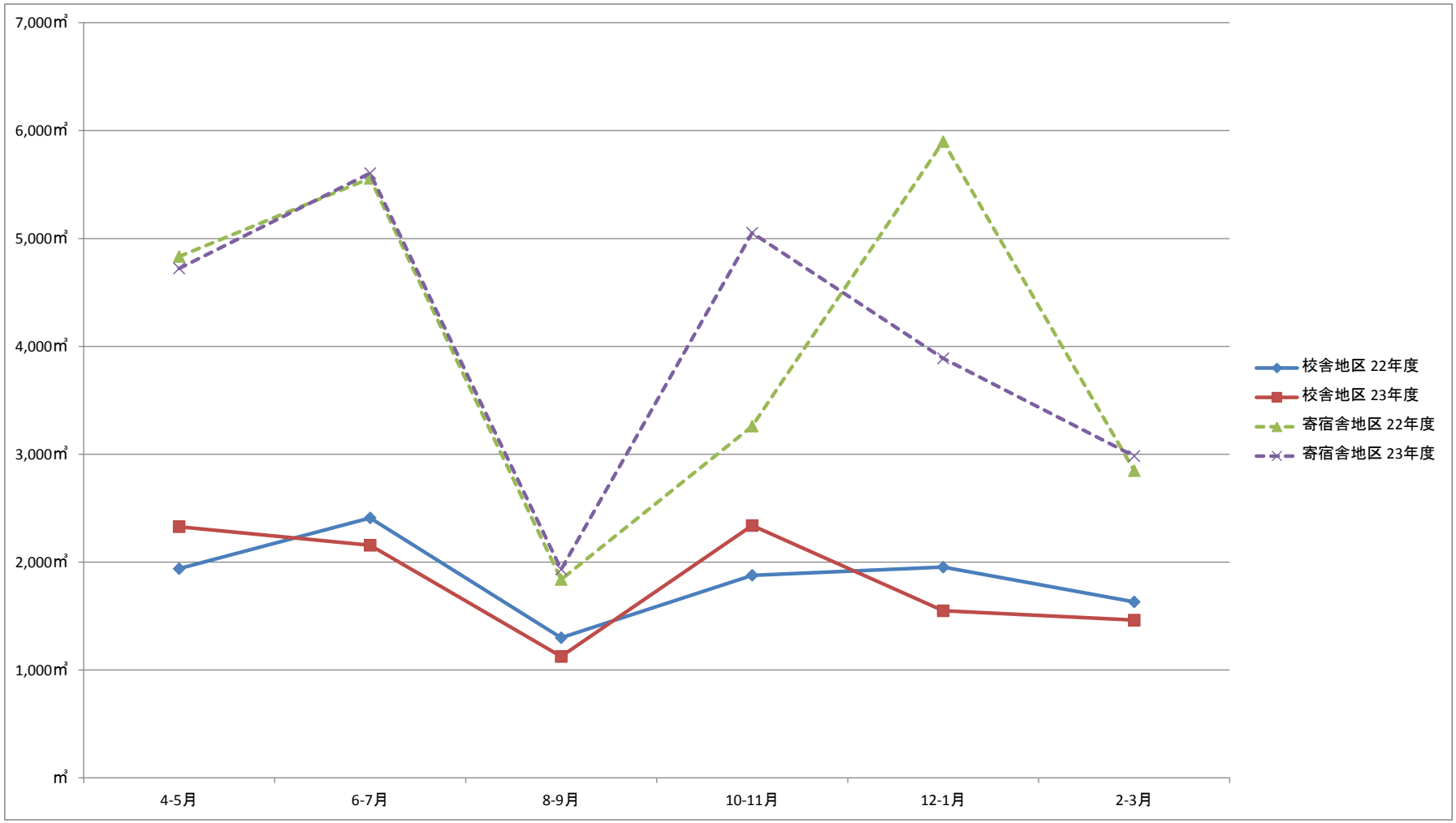
別紙6－2

平成22-23年度　水道使用量の比較

地区	年度	4-5月	6-7月	8-9月	10-11月	12-1月	2-3月	計
校舎地区	22年度	1,939㎥	2,410㎥	1,299㎥	1,878㎥	1,953㎥	1,631㎥	11,110㎥
	23年度	2,328㎥	2,156㎥	1,125㎥	2,339㎥	1,549㎥	1,462㎥	10,959㎥
寄宿舎地区	22年度	4,833㎥	5,557㎥	1,839㎥	3,261㎥	5,899㎥	2,848㎥	24,237㎥
	23年度	4,723㎥	5,605㎥	1,932㎥	5,052㎥	3,889㎥	2,983㎥	24,184㎥

22年度比

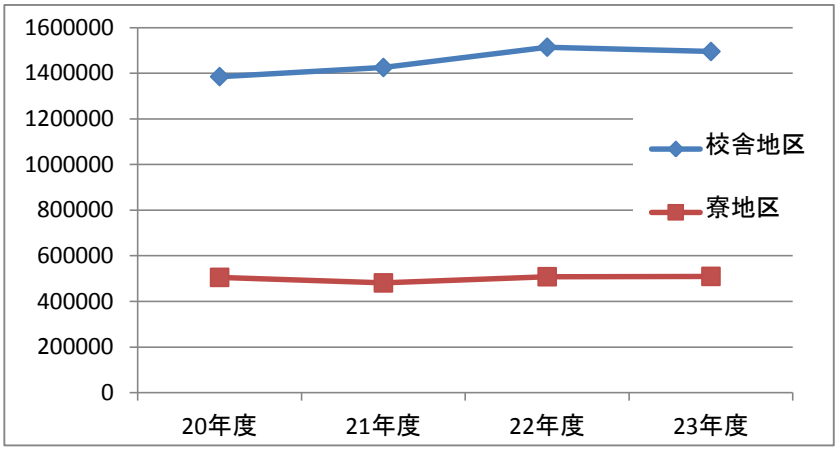
校舎地区	120.06%	89.46%	86.61%	124.55%	79.31%	89.64%	98.64%
寄宿舎地区	97.72%	100.86%	105.06%	154.92%	65.93%	104.74%	99.78%



別紙6－3

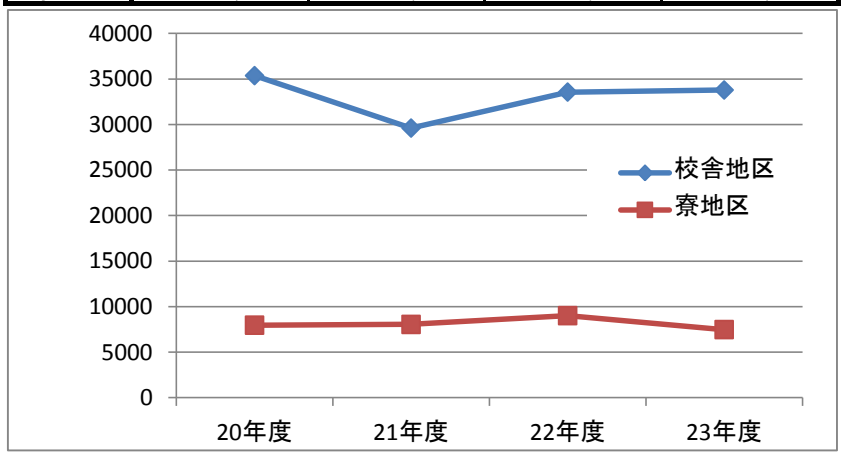
電力使用量

年度	20年度	21年度	22年度	23年度
校舎地区	1,385,160kwh	1,425,312kwh	1,514,352kwh	1,495,404kwh
寮地区	505,381kwh	481,179kwh	508,292kwh	509,654kwh



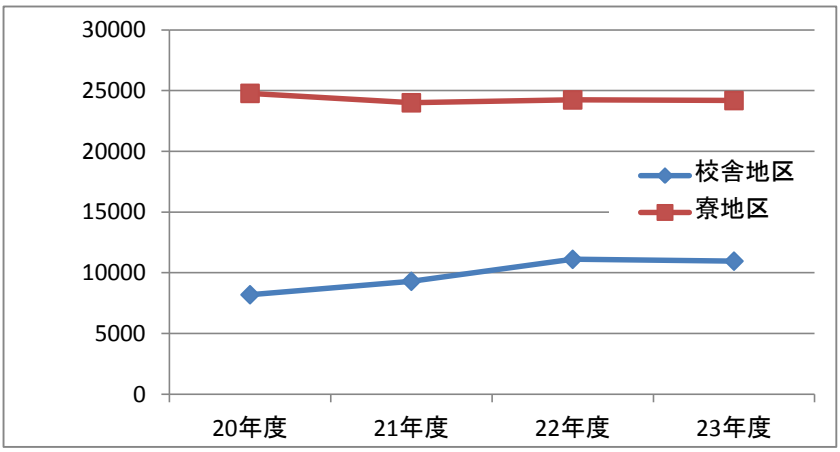
ガス使用量

年度	20年度	21年度	22年度	23年度
校舎地区	35,369㎥	29,610㎥	33,561㎥	33,789㎥
寮地区	7,967㎥	8,048㎥	9,015㎥	7,483㎥



水道使用量

年度	20年度	21年度	22年度	23年度
校舎地区	8,192㎥	9,301㎥	11,110㎥	10,959㎥
寮地区	24,776㎥	24,003㎥	24,237㎥	24,184㎥



別紙　7

生ゴミ等の排出量

排出品目	平成23年度　（平成23年４月～平成24年３月）			
	総排出量[kg／年] Ａ＝Ｂ＋Ｃ	廃棄物として処理したもの 処理量Ｂ	資源化したもの 資源化量Ｃ	資源化率 Ｃ／Ａ×１００
1 段ボール	150kg		150kg	100.00%
2 その他古紙	800kg		800kg	100.00%
3 燃やせるごみ	18,000kg	18,000kg		0.00%
（上記のうち、厨芥類）				
4 木くず・剪定枝	300kg	300kg		0.00%
5 びん	1,500kg		1,500kg	100.00%
6 缶	1,500kg		1,500kg	100.00%
7 ペットボトル	800kg		800kg	100.00%
8 紙製容器包装	300kg	300kg		0.00%
9 プラ製容器包装	300kg	300kg		0.00%
10 蛍光灯・電池	150kg	150kg		0.00%
11 不燃物	1,100kg	1,100kg		0.00%
計	24,900kg	20,150kg	4,750kg	19.08%

排出品目	平成22年度比増減
1 段ボール	−30kg
2 その他古紙	−100kg
3 燃やせるごみ	−1,800kg
（上記のうち、厨芥類）	
4 木くず・剪定枝	−60kg
5 びん	−120kg
6 缶	−120kg
7 ペットボトル	20kg
8 紙製容器包装	0kg
9 プラ製容器包装	0kg
10 蛍光灯・電池	−30kg
11 不燃物	−100kg
計	−2,340kg

別紙 8

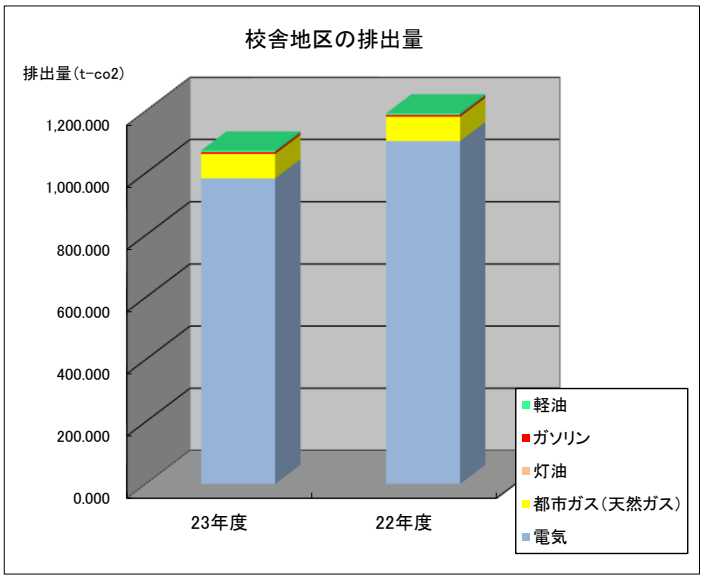
平成23年度　産業廃棄物の排出量

区分	排出量
木くず	1,690.000kg
金属くず	14,800.000kg
廃プラスチック	3,460.000kg
廃油	0.000kg
特別管理　廃油	80.945kg
汚泥	65.360kg
特別管理　汚泥(有害)	0.000kg
廃酸	10.000kg
特別管理　廃酸	12.000kg
特別管理　廃酸（有害）	0.000kg
廃アルカリ	59.000kg

平成22-23年度の温室効果ガス(CO_2)の排出量の比較

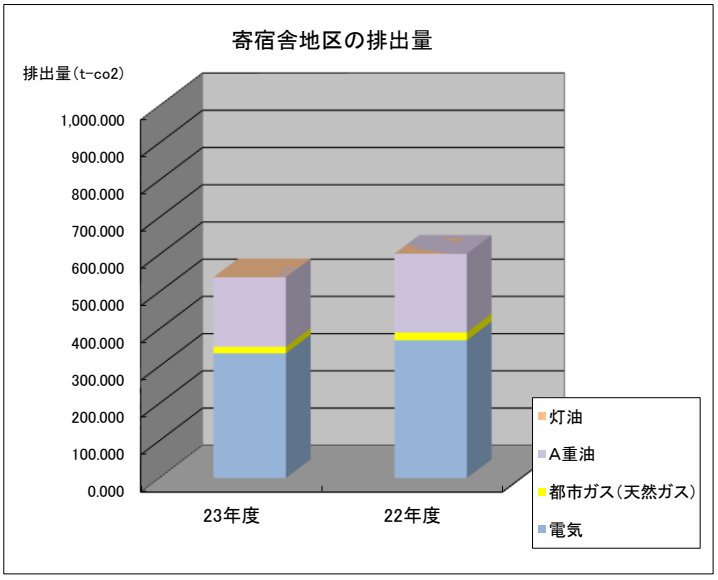
（単位：t-co2）

校舎地区	23年度	22年度
電気	982.480	1,102.448
都市ガス(天然ガス)	78.750	78.218
灯油	0.204	0.169
ガソリン	5.651	5.832
軽油	5.155	4.999
計	1,072.240	1,191.666



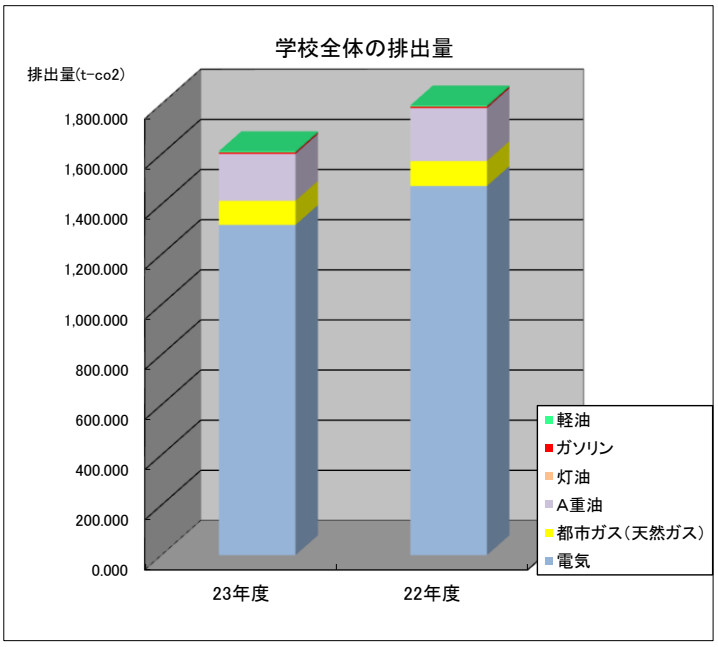
（単位：t-co2）

寄宿舎地区	23年度	22年度
電気	334.843	370.037
都市ガス(天然ガス)	17.440	21.011
A重油	186.964	211.351
灯油	0.000	0.000
計	539.247	602.399

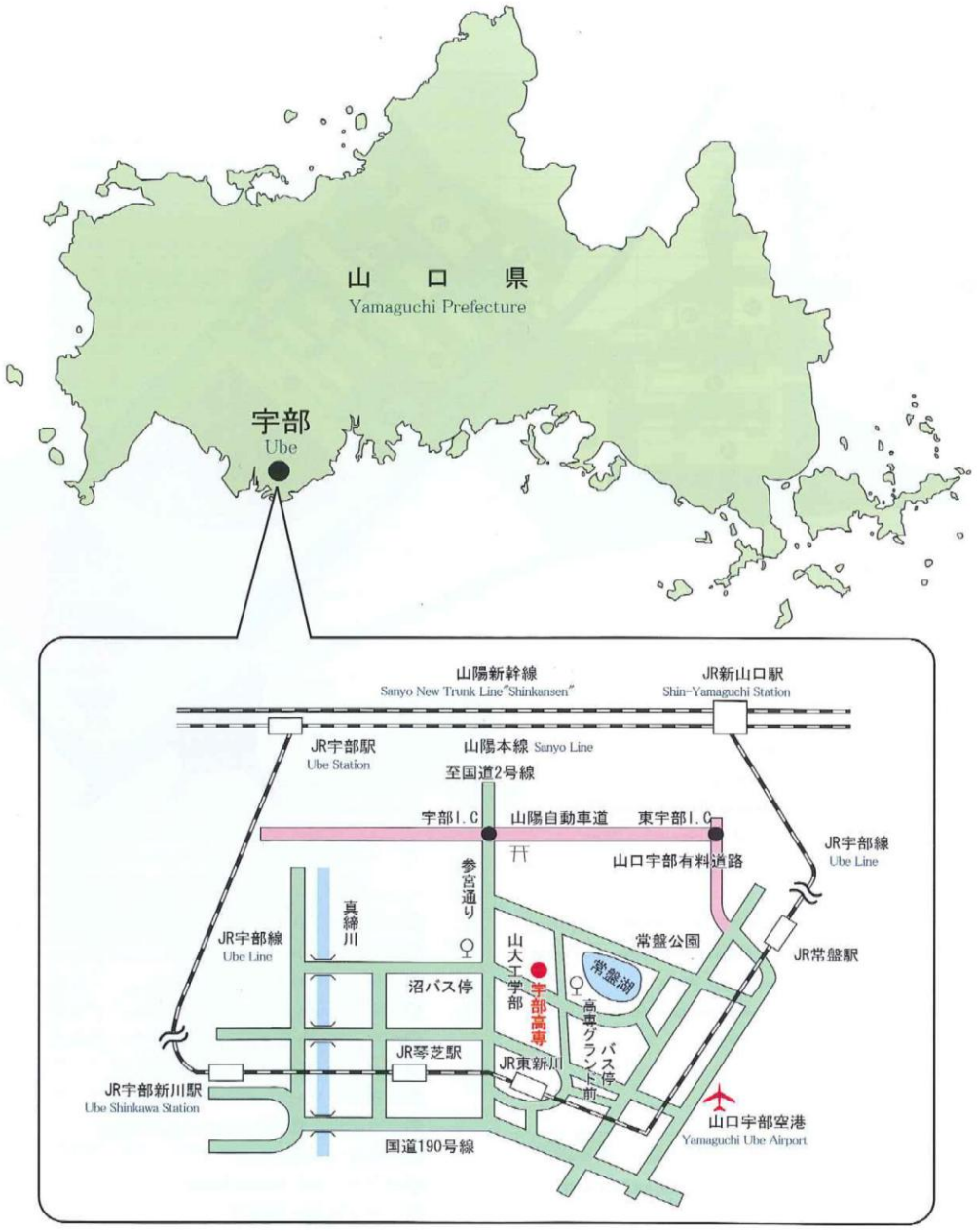


（単位：t-co2）

学校全体	23年度	22年度
電気	1,317.323	1,472.485
都市ガス(天然ガス)	96.190	99.229
A重油	186.964	211.351
灯油	0.204	0.169
ガソリン	5.651	5.832
軽油	5.155	4.999
合計	1,611.487	1,794.065



学校位置図
Location Map



交通案内
Traffic Facilites

○宇部新川駅から宇部市営バス　風呂ヶ迫行、ひらき台又は開・萩原行（循環）に乗車して高専グランド前下車徒歩3分（所要時間約20分）
○新山口駅から車で約40分
○宇部駅から車で約30分
○山口宇部空港から車で約15分

○From Ube Shinkawa Station: take the Ube City Bus bound for Furogasako, Hirakidai, or Hiraki-Hagiwara (loop-line) and get off at the Kosen Ground Mae bus stop, 3 minutes on foot from the bus stop (20 minutes in total)
○From Shin-yamaguchi Station: 40 minutes by car
○From Ube Station: 30 minutes by car
○From Yamaguchi Ube Airport: 15 minutes by car

宇部工業高等専門学校
環境マネジメント委員会